

令和元年度行政評価委員会 議事要旨

| | |
|---------|---|
| 会 議 名 | 葛飾区行政評価委員会 第2回全体会 |
| 開 催 日 時 | 令和元年8月28日(水) 午後1時00分から3時00分まで |
| 開 催 場 所 | 葛飾区役所新館5階 庁議室 |
| 出 席 者 | 【委員14人】 大石会長、小松原委員、鈴木委員、大山委員、折登委員、 西山委員、村上委員、大畑委員、上村委員、久保委員、 田中委員、谷本委員、千田委員、長谷委員 【区側10人】 区長、事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員7人) |

会議概要

1 会長挨拶

2 政策経営部長挨拶

3 答申内容の確認

(第一分科会総括、答申内容の読み上げ後、質疑応答)

【家具転倒防止対策】

A 委 員：家具転倒防止対策については、民生委員に周知の協力依頼があるが、本事業と同じものか。

事 務 局：そうである。

A 委 員：今後の方向性に「民生委員に協力してもらい本事業を周知すべき」とあるが、民生委員は既に周知活動は行っている。

大石会長：今後も協力して周知していただきたい。

【葛飾産野菜販売経路拡大支援事業】

B 委 員：地産地消に貢献したいという方は多くいると思うが、BtoB だけではなく BtoC のアプローチや飲食店への PR は行っているのか。

大石会長：今まで PR が弱かったため、ホームページ等を活用しての具体的な PR 方法について提言を入れた。近隣に直売所がない地域に対しての PR も必要である。

C 委 員：販売できる農産物は少ないが、防災や環境の面から農地の保全は重要であるという結論に至った。

- B 委員：事業の廃止や事業の変更などの提案は出なかったか。
- D 委員：事業名の変更は提言している。
- E 委員：行政の事業はコストだけでは評価できない。家具転倒防止対策も、予算の執行率が低く需要も少ないと思われるが、災害対策の行政サービスとしてあった方が良くはないかという観点で改善とした。

【放置自転車総合対策】

- F 委員：総合管理とはどういうものか。
- 事務局：評価表に記載のあるとおり、今まで別々に実施していた放置自転車の撤去搬送、誘導及び指導、自転車保管所管理を一括して1社に委託をしているものである。
- A 委員：環境課で実施している花いっぱい運動との連携については検討したか。
- G 委員：ひまわりプランターは、参考資料として配布のあった「放置自転車追放キャラバン」の事務事業評価表の中に記載があり、別事業で実施しているものであるため、今回の事業評価では話題には上らなかった。
- H 委員：マナー啓発の具体的な方法は検討したか。
- 大石会長：評価結果に記載のあるとおり、警告札に放置自転車対策費用等を記載したり、「撤去費用は区民の税金です」などのインパクトのある横断幕を駅前等に掲示してはどうかと意見があがった。

（第二分科会総括、答申内容読み上げ後、質疑応答）

【障害者週間行事】

- 大石会長：提言内容に異議がないため、本事業については、評価結果の記載のとおり提言することとする。

【20歳代・30歳代健康診査】

- E 委員：国民健康保険の健康診査と内容は同じものか。
- 事務局：そうである。
- E 委員：がん検診はオプションとして追加できるのか。
- 大石会長：別事業でがん検診は実施している。
- I 委員：本事業は受診者の費用負担はないのか。
- 小松原分科会長：無料である。
- I 委員：若い世代に糖尿病の方も増えているので、健康を意識してもらえる機会となり、良い事業だと思う。

【日光林間学園運営】

- I 委員：日光林間学園は子どもにとって大切な施設であると思う。修繕に8億円かけたことについては、高いか安いかは疑問である。
- C 委員：良くなったと喜んでおり、評判は良い。
- 小松原分科会長：施設としては良くなったが、利用の頻度が課題である。
- C 委員：学校の施設と考えている方が多く、一般利用が可能なことを知らない方が多いと思う。
- G 委員：指定管理者はどこが請け負っているのか。食堂や清掃等は別事業者が請け負っているのか。
- 小松原分科会長：国際自然大学校・東急コミュニティーグループが一括で請け負っている。
- G 委員：いつから請け負っているのか。
- 小松原分科会長：2年前からである。なおプロポーザルにより業者を選んでいる。
- D 委員：一般利用も可能とのことだが、他のホテルや旅館と比較して設備等の遜色はないのか。
- 事務局：林間学園施設のため、部屋に風呂・トイレがないなど、通常のホテルとは異なる。
- C 委員：宿泊費はどのくらいか。
- J 委員：区内在住・在勤者は食事別で2,700円である。

4 区長への答申

(会長から区長へ評価結果を答申)

5 区長挨拶

今年度で18回目の行政評価委員会を迎えました。毎年度、いただいた答申は各部局に戻し、さらなる検討をし、年度末に各部局で検討した内容・状況について報告させていただいております。いただいた答申を踏まえて事業を見直すことで、1つ1つの事業が区民のみなさんにより使いやすいものになるように、今後も努力してまいります。

放置自転車については、本日も担当部長が現場を回り、駐輪場等の状況を見ております。今後、いただいた答申を踏まえて具体的な対策をとるように指示をしたところです。

昨日、日光林間学園で行われた小中学校長、幼稚園長の研修に参加し、改修後のきれいになった施設を見てまいりました。公共施設は有効に活用しなければなりません。子どもたちの課外活動での活用はもちろんのこと、より多くの方に活用していただけるように、いただいた答申を参考に対策をとっ

てまいります。

各事業について、いただいた答申は区民のみなさんの声として捉え対応してまいります。

6 区長との懇談

I 委員：15、6年前に街づくりのマスタープランを行ったときに比べると駐輪場は整備されたと思うが、放置自転車がまだ多いというのが現状だと感じた。駐輪場の整備には場所の確保の問題があると思うが、商店街の空店舗の活用をするなど駐輪場を増やしてほしい。隣接区とも、連携して駐輪場の整備を実施してほしい。

区 長：新小岩駅は葛飾区、小岩駅は江戸川区といったように隣接区とは役割分担をし、駐輪場の整備を行っております。駐輪場の問題は20年くらい前から比べると前進しておりますが、まだ不足しているのが現状です。区では、利便性やエコロジーの面から多くの方に自転車を使用していただきたいと考え、自転車専用レーンの整備などを進めており、駐輪場の需要も高まっていますので駐輪場の整備を今後も進めてまいります。民間の駐輪場についても、民間で運営ができるように、行政として支援をしており、増加しています。駅前等にある一定時間の利用が無料の駐輪場については、区が設置費用の補助をし、民間が運営しています。この取組みは、放置自転車は一時置きの方が多いので、放置自転車の削減に効果が出ています。今後も、答申でいただいた警告札の工夫や啓発活動など参考にさせていただき、総合的に対策をとってまいります。

D 委員：公共施設の駐車場・駐輪場については、余裕をもって整備をしてほしい。

区 長：管理をするには有料にする必要があります。原則、有料にすることにより管理が適正に行われます。特に駅周辺の公共施設の場合、通勤者の自転車が放置されていることもあるため、最初の数時間は無料で、それ以降は有料にするということも実施しております。また、設備費の問題はありますが、地下式駐輪場の整備も検討をしております。放置自転車の削減のために、取り締まりだけではなく、使用料を支払えば停めたいときに停められる環境を、整備してまいります。

K 委員：ワンルームマンションの周辺に、自転車が散乱しているのを見かける。ワンルームマンション建設時に、入居者の駐輪場は設けるようにできないか。

区 長：マンション建設については指導要綱がありますが、法的規制がつく

ものとお願ひだけのものがあります。町会加入も法的な規制はできませんが、以前と違ひ今は、入居者に資料を渡すなど町会加入の案内をしております。駐輪場についても、世帯分の駐輪場は確保するようにはなっていますが、入居者の多くが駐輪場ではなく、使い勝手のよい場所に駐輪してしまうような形式的な駐輪場の整備とならないように、よりきめ細かな指導をしてまいります。

A 委員：縦割り行政をクロスオーバーできるような仕組みを構築してほしい。

区 長：縦割りの弊害があることは事実です。企業や国なども同様だが大きな組織では、責任を明確にするため縦割りにしています。縦割りを廃止し、組織を横に向けたとしても横向きの縦割りになり、組織をいじっただけでは縦割りはなくなりません。すぐやる課では、すべての問い合わせについて一度受け止めて、すぐやる課でできることはすぐやる課で行い、他部署に依頼する場合は、しっかり繋いだうえで案件を引き継いでおります。すぐやる課だけではなく他部署においても、職員一人ひとりが、自身の業務以外にも区で実施している事業についての情報収集を行い、区民からの一般的な質問に対しては回答し、専門的な知識が必要な場合は、担当部署までご案内するなど、縦割りの課題と言われている部分について解消を図っているところです。区役所の業務でない国や都などの業務についても、区民の方にとっては同じ役所の業務であるため、区民のために事前に知識を蓄え、わかることは回答したり、担当機関に繋がられるようにしていこうと職員に話しております。常にこのような意識を持っていないと縦割りになってしまうため、今後も努力してまいります。

L 委員：現在、マンションも含め 40 世帯ほどで集積所を利用しているが、集積所が広いため、通行人にとってポイ捨てがしやすいようで、清掃をしてもごみが常にある状態である。マンションは独自の集積所を設け、一戸建てについては個別収集をしてもらえないか。

区 長：高齢者の一人世帯などを対象に個別収集をする制度を現在も運用しております。しかし、区内に 23 万を超える世帯がある中で、全て個別収集を実施すると莫大な費用がかかってしまいます。集積所については、以前と比較すると細かく分けて設置しております。通行人のポイ捨てを抑止するために、集積所の位置を変更したり、世帯が多い場合は小分けにしたり、マンションは独自に集積所を設置するなど相談できるように担当に繋がってまいります。

G 委員：行政評価委員会に何年か参加し、葛飾区がきめ細かく様々な事務事業を実施していることを知ったが、イメージでは港区や世田谷区など

の方が先進的なイメージがある。葛飾区のイメージアップを図っていただきたい。

区長：私もイメージアップは必要だと感じおります。23 区の認可保育園の入所率は葛飾区が一位であったり、実は、他区より良いサービスを提供している分野も多くあります。一方、イメージはとても大切であります。駅周辺の花いっぱい運動や道路、公園の整備、公共施設の改修や窓口の待遇改善など、総合的に良い街だと感じてもらえるような取り組みを、基本的な行政サービスである高齢者支援や子育て支援などとともイメージアップのために実施してまいりました。一部報道で葛飾区に対する悪いイメージが植えつけられてしまうこともありますが、葛飾区世論調査の定住意向の間では、84.5%の区民の方が「葛飾区内に住むつもり」と回答しており、外から見ても住みよい、良い街だと感じてもらえるようにイメージアップのために、より一層、広報に力を入れてまいります。

F 委員：日光林間学園は、小学校の林間学校で利用するために改修に 8 億円かけ、毎年約 1 億円と莫大なコストがかかっている。区で持つ施設を増やしすぎると、パンクしてしまうのではないかと心配している。施設の整理については、事業の整理とともに区民にわかるように説明してほしい。

区長：公共施設の整備については、人口予測がどのくらいで、どのくらいの施設が必要なのか等、色々な議論が必要です。区民の方からは、「集会所はたくさんあった方がよい」、「学校の統廃合はもつてのほかだ」という意見が一般的に多くあります。しかし、個別に意見を伺うと、「学校は小規模は良くない、大規模校の方が子どももみんなと遊べて良い」、「運動会の円滑な運営やクラス替えもできるようにするには一定の規模は必要だ」という議論も多くあります。理解を得るためには議論をしなければならないと思っております。以前には区外の施設として、あだたら高原学園がありましたが廃止しました。廃止の際は、反対の意見もありました。その後、代わりに菅平高原などで移動教室を実施しておりますが、子どもや先生からは好評をいただいております。施設については、どのように活用され、利用者がどう評価しているか、また費用対効果がどうかなど様々な視点で検討していかなければなりません。廃止にする際は、丁寧に議論をし、数年経過した時には良かったと言えるようにしたいと考えております。現有する施設については、より効率的に、多くの方にご利用いただけるようにしてまいります。

- B 委員：各事業において、広報が足りないのではないかと感じている。もっと創意工夫をすべきである。
- 区 長：私は協働をテーマに掲げております。最終的に街を良くするのは、行政ではなく区民の方だと考えております。区民の方に最大限に力を発揮してもらうために、区の状況や課題、実施している事業を区民の方に知ってもらうことは非常に大切なことでもあります。今までも工夫をしながら広報活動をしてまいりましたが、まだ課題が多いことも事実であります。今後、専門家の効果的な活用も考えております。また、広報については、広報課だけではなく職員一人ひとりが、どのように区民の方に区の事業や課題についてお知らせできるか考え行動し、区民の方からそれに対してご意見をいただくことが重要であり、それが結果として良い仕事に繋がると考えております。広報紙、YOUTUBE、広聴、マスコミとの連携による PR などの現在の広報活動をさらに前進させ、区民の方とともに葛飾を作ってまいりたいと考えております。
- E 委員：葛飾区がさらに良くなるために、鉄道の高架を進めてほしい。
- 区 長：鉄道の高架は街づくりにおいて、最も大事な要素であります。立体化事業は東京都の事業であります。現場の街づくりについての計画等は区で実施しております。青砥駅から四つ木駅間の立体化については、用地買収が2年前にようやく終わり、工事を開始しています。その他、京成高砂駅・京成小岩駅間の立体化も今後進めていく予定です。今後も継続して、京成電鉄との協議や国への区内鉄道の立体化順位の引き上げの陳情、都への立体交差事業の位置づけ引き上げの働きかけ等を行い、鉄道の立体化を進めるとともに、安全な街づくりのため努力してまいります。
- H 委員：分科会の中で、各事業における広報不足の指摘が多くあった。区の発信力の充実を図ってほしい。スクラップアンドビルドの行政理念は素晴らしいが、事業の中には前例踏襲主義のものもあり残念に感じた。
- 区 長：葛飾区のイメージを上げるためにも、葛飾区を適正に評価してもらうためにも発信力の向上は大切であります。様々な分野において、指標は改善しているにも関わらず、認識してもらえていないことも事実であるため、広報にはさらに力を入れてまいります。また、スクラップアンドビルドは常に行わなければならないと考えております。区民の方への説明責任を果たし、実態を知ってもらい区民の方の理解を得たうえで、より良い事業へ変えてまいりたいと考えております。
- J 委員：委員それぞれが区政について意識し、興味を持っていたからこそ今回、様々な意見がでたと思う。その意見を各事業にぜひ取り入れてほ

しい。先日、葛飾区が導入している防災 VR について、新聞で見たが詳細を聞きたい。

区 長：出来る限りみなさんの意見を取り入れ、改善できるものは改善してまいります。防災は疑似体験や知ってもらうことが重要であります。現在、防災訓練で区民のみなさんに VR 体験ができるようにしております。その他、起震車で地震の揺れ体験をしていただいたり、水陸両用車やまちかど防災訓練車を導入し新たな防災訓練の参加者の掘り起しを図り、多くの区民の方に防災に興味を持ち、防災について知っていただけるように取り組んでおります。防災対策は、行政が堤防や道路を整備するだけではなく、自助・共助も必要であり、区民の方にその意識をもってもらうことが大切であります。その際に、防災について知ってもらうツールとして、VR などを効果的に活用してまいりたいと考えております。

大石会長：放置自転車対策については、違反を取り締まるために莫大な税金が投入されている。取り締まりに莫大な税金を投入する必要がない放置自転車のない街づくりを、自転車駐車場の整備も含めて、ぜひすすめてほしい。

区 長：放置自転車対策に経費がかかっていることは事実であります。同じ経費をかけるのであれば、警告や撤去のためではなく、施設整備やサービス向上のために経費をかけてまいりたいと考えております。

7 写真撮影

8 行政評価の今後の日程について

(事務局より今後の日程について説明、事務連絡)

9 閉会